

セーフティプロモーションスクール再認証申請書

Safety Promotion School



河内長野市立石仏小学校

Ishibotoke Elementary School

目 次

学校概要		3
セーフティプロモーションスクールの 7 つの指標		5
指標 1		6
指標 2		6
指標 3		7
指標 4		8
指標 5		10
指標 6		11
指標 7		12
【写真資料】	(ホームページには記載しません)	
安全管理		
安全教育		
安全連携		
資料：本校におけるケガの分析（保健室より）		13

河内長野市立石仏小学校の概要

【沿革史】

1981（昭和56）年	大阪府河内長野市立石仏小学校を創立 創立式典挙行（10月6日）この日を創立記念日と定める
1982（昭和57）年	プール完成
1984（昭和59）年	学校給食開始
1990（平成 2）年	創立10周年記念誌発行 創立10周年記念事業として航空写真を撮影 高鉄棒・低鉄棒設置 体育館前通路シェルター完成
1994（平成 6）年	南河内第二教科書センター設置
1997（平成 9）年	コンピュータ設置
2008（平成20）年	「かがやけ 石小っ子」看板設置
2010（平成22）年	ICT 機器設置 運動場一部芝生化 30周年記念事業
2020（令和 2）年	40周年記念事業
2022（令和 4）年	S P S 認証

【本校周辺地図】

〒586-0069

大阪府河内長野市石仏 662

<TEL>0721-68-8766

<FAX>0721-68-8799



<E-mail>ishibotoke_el@ml.kawachinagano.ed.jp

【環境】

校区は、校名となった石仏や尾崎、惣代などの旧村地域と、山林を切り開いて造成された南・北青葉台地区で構成されています。当地域は、起伏に富んだ山林や畑に囲まれ、空気が清らかで、交通の便はあまり良くありませんが、子どもたちにとっては自然環境、社会環境ともに恵まれており、のびのびと学習できる条件がそろっています。本校は、住宅地同様、山林を切り



開いて造成された、小高い丘（海拔 160m）にあります。校地は広く総面積 45,577 m²（運動場 10,684 m²、建物敷地 9,502 m²、実験実習地ほか 25,391 m²）で、教材園、多目的室、ラウンジスペースなどの屋内施設も整っています。

【石仏の由来】

新町から南へは旧道が西側にあつて、この道筋に家並があります。その南の端にあるお堂が阿弥陀寺です。「この寺は別名「石仏寺」と言い、本尊はその名の通り石仏（三石仏）ですが、これが地名となっている事は由緒あるお寺に違いありません。現堂は江戸時代の再建とみられます。」と書かれてあります。（「河内長野百景」より）

【校章の由来】



本校の校章は、創立前年の加賀田小学校の先生方が考案して下さった案の中から創立時に、初代校長が採択し決定されました。外郭の桜の花びらは、加小のものを踏襲し、本校が加賀田小学校より分離し創設された事を表現しており、中央は、校名「石仏小学校」の頭文字の石を三つ組み合わせたものの図案化であり、これは本校の校区が「石仏・加賀田地区」「北青葉台地区」「南青葉台地区」の三地域であることを意味し、この三地域の児童・保護者地域の方々・本校教職員の三者が強く結び合つて、本校の発展を強く願っている姿を表現しているのです。

【教職員数と在籍児童】

教職員数

職名	人数
校長	1
教頭	1
教諭	12
養護教諭	1
事務	1
支援員	3
校務員	1
給食配膳員	2

在籍児童数（令和7年1月20日現在）

学年	学級数	児童数
1年	1	29
2年	1	31
3年	1	29
4年	1	35
5年	1	36
6年	1	36
支援学級	3	(17)
通級教室	1	(15)
合計	10	196

【教育目標及びめざす子ども像】

（１）教育目標 『笑顔で つながれ かがやけ』 石小っ子

（２）めざす子ども像

- 「かंगえる子」 （自ら考え、判断する子）
- 「がんばる子」 （最後まであきらめない子）
- 「やさしい子」 （思いやりのある子）
- 「けんこうな子」 （明るく元気な子）

セーフティプロモーションスクール（SPS）の7つの指標

指標 1	学校内に、学校安全に関わる活動の中核を担う「学校安全コーディネーター」等を設置し、その「学校安全コーディネーター」を中心とする学校安全推進のための委員会（以下「学校安全委員会」）が設置されている。なお学校安全委員会は、「学校安全コーディネーター」のほか、校長・教頭等の学校管理職を含む教職員の代表、児童生徒の代表、PTA 代表、学校を管轄する地域の警察署・消防署の代表、学校のある地域自治会の代表、スクールガードリーダー等の学校ボランティアの代表等から構成されていることが望ましい。
指標 2	学校において、「生活安全」・「災害安全」・「交通安全」の分野ごとに、「安全教育」・「安全管理」・「安全連携」の領域（「3 領域」と表記）の学校安全推進のための「中期目標・中期計画（3 年間程度）」が立案されている。
指標 3	学校安全委員会において、「中期目標・中期計画」に基づいた学校独自の学校安全推進のための「年間計画」が策定されている。
指標 4	策定された「年間計画」に基づいて、学校安全委員会を中心に、学校関係者が参加して、学校安全推進のための活動が年間を通じて継続的に実践されている。
指標 5	学校安全委員会において、実践された学校安全推進に関わる活動の成果が定期的に報告され、それぞれ明確な根拠を基に活動に対する分析と評価が行われている。
指標 6	学校安全委員会における次年度の「年間計画」の策定にあたって、それまでの活動成果の分析と評価を参考に、当該校における学校安全に関わる実践課題の明確化と「年間計画」の改善が取り組まれている。
指標 7	学校安全推進に関わる活動の成果が、当該学校関係者に共有されるよう広報するとともに、「協働」の理念に基づいて、国内外の学校への積極的な活動成果の公開と新たな情報の収集に努めている。

指標 1：学校安全委員会

区分	役職
教職員代表	校長・教頭・教務主任・安全主任・養護教諭
児童代表	各委員会の委員長と副委員長
P T A 代表	P T A 会長・P T A 本部役員
警察関係者	羽曳野警察署スクールサポーター
消防関係者	河内長野消防署
地域代表	学校運営協議会委員・児童の見守り隊
学校関係	河内長野市立加賀田中学校長

指標 2：セーフティプロモーションスクール活動【中期目標・中期計画】

重点指導領域・・・生活安全（令和 4 年度～令和 6 年度）

分野	中期目標・中期計画
生活安全 ・外傷予防 ・犯罪予防	1. 危険予知能力及び危険回避能力の育成（安全教育） →気づき・考え・判断し、児童が自ら危険を予測し、回避できる能力を育成する。 →養護教諭によるけがの統計に基づいた傷害発生箇所及び、児童と教員が行う安全点検による校内の危険箇所の把握と校内環境の改善に努める。 2. 点検や確認、職員間の情報共有の徹底（安全管理） →教員による安全を意識した校内環境の改善を定期的に行う。（月 1 回） →児童一人ひとりの情報を確実に共有する。 3. 保護者や関係諸機関との連携継続（安全連携） →河内長野警察の協力のもと、不審者対応訓練を行う。 →全学年での交通安全教室による学習、5 年生での応急手当の学習を行う。
災害安全 ・地震対策 ・風水雪害対策 ・火災予防	1. 危険予知能力及び危険回避能力の育成（安全教育） →緊急地震速報音を使用した避難訓練や火災を想定した避難訓練や土砂災害避難訓練や不審者対応訓練を年 7 回行う。 2. 点検や確認、職員間の情報共有の徹底（安全管理） →マニュアルの確認と改善を定期的に行い、職員間で共有を図る。 3. 保護者や関係諸機関との連携継続（安全連携） →震災などによって学校待機となった児童を、保護者が引き取りに来ることを想定した訓練を 6 月の土曜参観日に実施する。
交通安全 ・被害予防 ・加害予防	1. 危険予知能力及び危険回避能力の育成（安全教育） →安全指導の充実を図り、児童が自ら危険を予測し、回避できる能力を育成する。 2. 点検や確認、職員間の情報共有の徹底（安全管理） →PTA による見守り活動を定期的に行うことで登下校の安全を守る。（月に 3 回程度） 3. 保護者や関係諸機関との連携継続（安全連携） →警察などの関係諸機関の協力を得て、自転車安全教室と交通安全教室を全学年実施する。

指標 3 : セーフティプロモーションスクール活動の年間計画（令和 6 年度）

分野	領域	年間計画
重点指導領域 生活安全 ・外傷予防 ・犯罪予防	安全教育	○外傷の原因や発生場所を振り返ることで、自ら進んで外傷予防に取り組もうとする意識を高める。 ○安全学習・安全指導の授業によって一人一人の危険予知能力及び、危険回避能力を育成する。（副読本の活用） ○各委員会ごとに安全な学校にするためにどんな取り組みができるのか考える。 ○廊下の歩き方や休み時間の約束について児童会で企画・提案し、全校児童が校内で安全に過ごせるようにする。 ○不審者対応避難訓練（実地訓練）を行うことにより、緊急事態に落ち着いて対応できる力を身につける。 ○地区児童会の時（年 3 回）に、防犯ブザーや登下校ルートの確認をし、児童が安全に過ごせるようにする。
	安全管理	○教室や廊下、運動場、体育館など校内の危険箇所の点検を行う。 ○児童一人ひとりに関する情報を職員会議を通じて職員間で情報を共有する。 ○運動場を見渡せるようにカーテンを開けたり、休み時間や放課後に校内を巡回したりして、危険な行動を防いだり指導したりする。 ○メール配信システムを活用し、学校と保護者との連携が迅速に行えるようにする。 ○食物アレルギー対応実地訓練を行い、緊急時には全教員がエピペンを使用できるように備える。
	安全連携	○救急救命講習・訓練を通して教職員間の救命スキルを高める。 ○不審者対応マニュアルを制定する。 ○学校保健委員会で学校の取組を報告し、外部からの評価を受ける。 ○保護者に向けて、情報モラルやメディアコントロールに関する啓蒙活動を行う。
災害安全 ・地震対策 ・風水雪害対策 ・火災予防	安全教育	○地震・火災・土砂災害の避難訓練を年 7 回実施し、児童の防災スキルを高める。 ○防災に関する授業（応急手当・防災ガッパづくりなど）を積極的に実施する。 ○地区別児童会で下校ルートを確認したり、危険箇所の共通理解をしたりして災害時のために高学年のリーダーシップを育む。
	安全管理	○防災マニュアルに基づき、教職員がそれぞれの役割を果たす。 ○教員による年 12 回の校内安全点検をする。 ○災害時における保護者への連絡体制を確実なものにする。
	安全連携	○救急救命講習・訓練を通して教職員間の救命スキルを高める。 ○地域や河内長野消防署、河内長野警察署、市役所と連携した安全教育を実施する。
交通安全 ・被害予防 ・加害予防	安全教育	○安全に登下校しようとする態度を育成する。 ○自転車安全教室と交通安全教室を学年に応じて実施する。
	安全管理	○見守り隊の方が中心となり、登下校時に校区内を巡回し、児童の安全を確保する。 ○定期的に校区内を巡回し、道路状況の変化について情報を共有する。
	安全連携	○OPTA、学校運営協議会、見守り隊、関係各機関と連携し、地域の情報を共通理解する。 ○保護者や地域の協力を得て登下校の安全が確保されるように努める。 ○河内長野警察署と連携した安全教育を実施する。

指標 4 : セーフティプロモーションスクール活動の実践 (令和 6 年度)

分野	領域	活動・実践の内容
重点指導領域	安全教育	○けがをした児童がけがの種別発生場所を保健室前の平面図に記録した。 ○安全学習・安全指導の授業（副読本の活用で月 1 回程度）で危険予知能力や危険回避能力を高めるために、様々な危険から身を守るためにはどのような行動をとるべきかを考えた。 ○各委員会の提案によって校内で安全に過ごすための取り組み(占い・掲示物など)を実施した。(通年) ○授業中に不審者が侵入したという想定での避難訓練を行った。(6/12) 【児童数 193 名 教職員 16 名 PTA1 名 地域の方 2 名】 ○5.6 年生は非行防止教室を実施し(12/3 12/20) 【5 年児童数 35 名 教員数 1 名 講師数 1 名】、【6 年児童数 35 名 教職員 1 名 講師 2 名】 5 年生は消防署職員による救命救急の講習を受けた。(9/24) 【児童数 35 名 教職員 1 名 消防署職員 3 名】
	安全管理	○代表委員会の発案でコーナークッションを設置し、ケガの防止に努めた。(9/4) 【児童数 12 名 教職員 2 名】 ○代表委員会が校内安全マップを作成したり(9/4)【児童数 12 名 教職員 2 名】、放送委員会が安全占い(通年)【児童数 12 名 教職員 2 名】を放送したり保健委員会【児童数 12 名 教職員 2 名】が掲示物を作成したりと啓発活動を行った。 ○校内の廊下や階段では右側を歩くことの指導を徹底した。(通年) 【児童数 12 名 教職員 2 名】 ○学校と保護者との連携を図るために、メール配信システムを活用した。(通年) 【児童数 196 名 教職員 16 名】 ○給食中に児童がアナフィラキシーショックを起こすことを想定したアレルギー対応実地訓練を教職員が行った。(4/5)【教職員 16 名】
	安全連携	○救急救命講習及び訓練を行い、救命スキルを向上した。(6/7)【教職員 16 名】 ○C S が不審者役を演じ、学校に侵入してきたことを想定し、不審者取り押さえから警察へ引き渡すまでの実地訓練を行った。(5/31)【教職員 16 名 地域の方 2 名 警察署職員 1 名】 ○保護者や児童に学校アンケートを行い、教育活動に対する調査を行った。(2/7) 【児童数 195 名 PTA151 名】
災害安全 ・地震対策 ・風水雪害対策 ・火災予防	安全教育	○児童と教職員が、地震や火災、土砂災害が発生したという想定で一次避難行動から避難経路の確認、その後二次避難行動をとる避難訓練を行った。(地震 9/11【児童数 190 名 教職員 20 名 地域の方 2 名】 9/12【児童数 186 名 教職員 20 名 地域の方 2 名】 火災 1/15【児童数 190 名 教職員 20 名 地域の方 2 名】 土砂災害 12/18【児童数 190 名 教職員 20 名 地域の方 2 名】) ○保護者への引き渡し訓練を実施した。(6/8)【児童数 195 名 教職員 16 名 PTA151 名】 ○副読本を活用し、総合的な学習の時間及び、学級活動の時間に防災に関する教育に取り組んだ。(月 1 回程度) ○地区別児童会の時間を設定し、年に 3 回一斉下校を実施した。(7/5【児童数 185 名 教職員 16 名】 12/18【児童数 195 名 教職員 16 名】 3/5【児童数 191 名 教職員 16 名】) ○4 年生で阿倍野防災センター(11/11)【児童数 35 名 教職員 4 名】、6 年生の修学旅行で人と未来防災センターを見学した。(11/21)【児童数 36 名 教職員 6 名】
	安全管理	○防災マニュアルを作成し、それに基づき、地震・火災・風水害の発生時に対応するための役割を確認した。(4/5)【教職員 20 名】 ○安全点検をもとに、業者による防火扉や非常ベル等の点検を行った。(年 2 回)

		【教職員 16 名 業者 2 名】 ○災害発生時に迅速に保護者に連絡がとれる体制を整えておいた。 ○水泳学習指導の期間中、毎時間の指導内容及び安全点検結果、水位の調節等の管理状況をプール日誌に記入した。
	安 全 連 携	○河内長野消防署と連携して普通救急救命講習を実施した。(9/24) 【児童数 35 名 教職員 1 名 講師数 1 名 】 ○ゲストティチャーを招き、水害土砂災害の発生の仕組みや対応について学習した。(11/1) 【児童数 35 名 教職員 1 名 講師 2 名 】
交通安全 ・被害予防 ・加害予防	安 全 教 育	○全学年交通安全教室を実施し、登下校の安全学習を進めた。また、3～6 年生は自転車の正しい乗り方を大阪府交通安全協会の方に教えてもらった。(5/30) 【児童数 134 名 教職員 6 名 警察署職員 2 名】 ○河内長野警察署の協力により、1、2 年生に登下校での交通安全について指導した。(5/30)【児童数 58 名 教職員 4 名 警察署職員 3 名】
	安全管理	○教職員が通学路を巡回し、安全を確保した。(学期初め 3 日間)
	安 全 連 携	○見守り隊やスクールサポーター、PTA が決められた場所に立って児童の登下校時の安全確保を行った。(毎日)

指標 5 : セーフティプロモーションスクール活動の評価 (令和 6 年度)

分野	領域	評価
重点指導領域 生活安全 ・外傷予防 ・犯罪予防	安全教育	○これまでの実践を踏まえた安全学習・安全指導におけるカリキュラムを学年毎に系統立てて構築することができた。 ○けがの起こる原因や状況が明確になり、けがを予防する意識が高まった。 ○定期的に生活安全指導部会を開き、現状の意見交流や実践に対する振り返りを行い、新しい企画や取組改善について意見を出し合った。 ○各委員会が安全について考えて活動することができた。 ○市内の学校教職員に対して学校安全研修会で取り組みについて発表した。
	安全管理	○定期的に行う安全点検に基づいて、危険箇所の改修や修繕を可能な範囲で行った。 ○不審者対応マニュアルの読み合わせを年度初めに実施した。 ○生活指導上の課題があった場合、教職員全体で情報を共有し対応した。 ○不審者情報を受け、教員が一斉集団下校で引率したり、校区の見回りパトロールを行ったりした。
	安全連携	○救急救命講習及び訓練を受け、救命スキルの維持・向上を図った。 ○不審者対応避難訓練の実践を振り返り、今後の訓練のさらなる充実を図ることについて協議した。 ○感染症流行の際に、校医や教育委員会と連携し対策をとった。
災害安全 ・地震対策 ・風水雪害対策 ・火災予防	安全教育	○これまでの実践を踏まえた安全学習・安全指導におけるカリキュラムを学年毎に系統立てて構築することができた。 ○地震・火災・不審者対応の避難訓練を年間計 7 回実施した。 ○緊急地震速報音を用いて様々な場面を想定した訓練を実施した。 ○学級活動の時間の年間カリキュラムに沿って、防災に関する指導を行った。 ○定期的に生活安全指導部会を開き、現状の意見交流や実践に対する振り返りを行い、新しい企画や取組改善の為の意見を出し合った。
	安全管理	○防災マニュアルを作成し、年度初めに読み合わせをするとともに、1 年を通して訓練や点検を実施した。 ○毎回の避難訓練後の反省を教職員も振り返り、記録・評価を行った。 ○水泳学習指導期間中の指導内容及び安全点検を記録した。
	安全連携	○河内長野消防署等、関係諸機関・各種団体との連携内容の検討を行った。 ○業者及び関係諸機関と連携し、水泳学習実施前の設備点検を行った。 ○土曜参観で親子で防災ガッパ作りを行い防災に対する意識を高めた。(6/8) ○保護者・教職員による学校評価を行った。
交通安全 ・被害予防 ・加害予防	安全教育	○これまでの実践を踏まえた安全学習・安全指導におけるカリキュラムを学年毎に系統立てて構築することができた。 ○全学年交通安全教室を実施し、交通ルールや自転車の乗り方に関する知識を身につけさせた。 ○定期的に生活安全指導部会を開き、現状の意見交流や実践に対する振り返りを行い、新しい企画や取組改善の為の意見を出し合った。
	安全管理	○河内長野市内の交通事故の分析結果を踏まえ、朝会や学級活動の時間に指導した。 ○教職員による通学路の巡回を行った。
	安全連携	○見守り隊や PTA による登下校時の見守りを行った。 ○職員による登下校時の安全パトロールを実施した。

指標 6 : セーフティプロモーションスクール活動の改善（令和 6 年度）

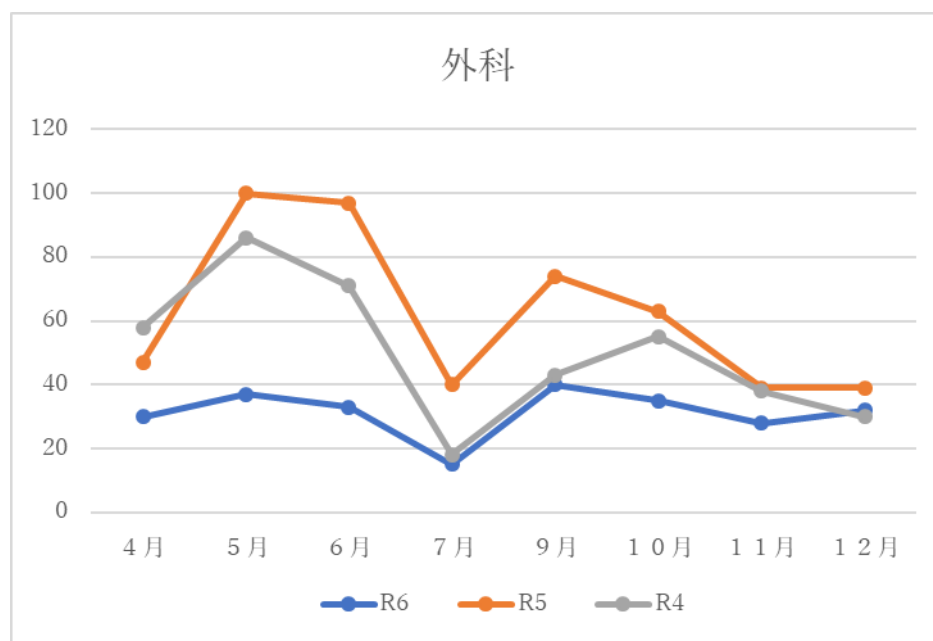
分野	領域	課題への対応と改善
重点指導領域 生活安全 ・外傷予防 ・犯罪予防	安全教育	○けがや防犯について、各学年・学級でカリキュラムに沿って計画的に充実した指導を行う。 ○情報モラルに関する指導を必ず実施する。 ○安全教育におけるカリキュラムの構築、見直し・改善を行う。 ○月 1 回の生活安全指導部会による評価を基にして、教育活動を改善する。
	安全管理	○児童自身の安全意識を維持・継続するための活動を継続して行う。 ○校内でのけが発生状況を分析し、けがを減らすための工夫をする。
	安全連携	○登下校時の児童の安全指導を徹底する。 ○職員会議にて、関係諸機関・各種団体・PTA 等との連携内容を検討し、防犯パトロールの企画・運営をめざす。
災害安全 ・地震対策 ・風水雪害対策 ・火災予防	安全教育	○安全教育におけるカリキュラムの構築、見直し・改善を行う。 ○月 1 回の生活安全指導部会による評価を基にして、教育活動を改善する。 ○防災等に関する教材開発を行う。
	安全管理	○安全点検を基にして災害時に危険になる箇所を改善する。 ○反省・映像記録を基に避難訓練を改善する。 ○管理職や担当者が不在でも、組織的に対応できるようにする。
	安全連携	○生活安全指導部会において、避難訓練の時期及び関係諸機関・各種団体との連携内容を検討する。
交通安全 ・被害予防 ・加害予防	安全教育	○安全教育におけるカリキュラムの構築、再編成・改定を行う。 ○月 1 回の生活安全指導部会による評価を基にして、教育活動を改善する。 ○交通安全教室の内容を検討し、より実践的な内容に改善していく。 ○学習の成果をもとに主体的に動ける児童を育成する。
	安全管理	○生活安全指導部会において、安全管理の検討を行う。
	安全連携	○職員会議にて、関係諸機関・各種団体・PTA 等との連携内容を検討し安全指導の充実を図る。 ○自転車安全利用条例に基づいた安全確保の協力を保護者へよびかけるようにする。

指標 7 : セーフティプロモーションスクール活動の共有（令和 6 年度）

分野	領域	成果の共有と協働
重点指導領域 生活安全 ・外傷予防 ・犯罪予防	安全教育	○学校安全実践力向上セミナーにおいて、本校の安全に関する取組について発表した。(9/17) ○学校安全コーディネーター養成研修において、本校の安全に関する取組について発表した。(R5/1/20) ○市内の学校教職員に対して学校安全研修会で取組みについて発表した。(1/28) ○校内でのケガの発生状況を保健委員会が全校児童へ発表した。
	安全管理	○生活安全指導部会を定期的に行き、安全についての情報共有を行った。 ○河内長野市議会委員が、対応訓練の様子を視察訪問。(12/20) ○児童の傷害発生状況を教職員間で共有した。
	安全連携	○地域別懇談会で地域の安全について情報共有を行った。 ○取り組んだ内容について、学期ごとに「あんぜんだより」で保護者へ発信した。 ○児童の傷害発生状況を学校保健委員会で学校三師、保護者、教職員で共有した。 ○不審者対応避難訓練を実施した後、振り返りを行い、今後の訓練の在り方について協議した。
災害安全 ・地震対策 ・風水雪害対策 ・火災予防	安全教育	○学校安全コーディネーター養成研修において、本校の安全に関する取組について発表した。 ○市内の学校教職員に対して学校安全研修会で取組みについて発表した。
	安全管理	○中学校区の交流会で本校の取組について報告した。 ○今年度の本校の取組と教職員、保護者による学校評価について職員会議等で報告・交流した。
	安全連携	○本校の取組について学校運営連絡協議会において情報を共有した。 ○避難訓練の様子を「あんぜんだより」で発信した。 ○管理職が月 1 回の PTA との運営委員会で情報交換を行った。 ○河内長野消防署と河内長野警察署と定期的に防災について情報交換を行った。
交通安全 ・被害予防 ・加害予防	安全教育	○中学校区で安全教育に関する本校の取組報告と情報共有を行った。 ○学校安全コーディネーター養成研修において、本校の安全に関する取組について発表した。 ○市内の学校教職員に対して学校安全研修会で取組みについて発表した。
	安全管理	○学校運営協議会で本校の取組について報告した。 ○今年度の本校の取組と教職員、保護者による学校評価について職員会議等で報告・交流した。
	安全連携	○本校の取組について学校運営連絡協議会において情報を共有した。 ○交通安全教室の様子を「あんぜんだより」で発信した。 ○PTA 子ども安全委員会において定期的にあいさつ運動やいっしょに帰ろう運動など実施し、登下校の安全について情報共有を行った。

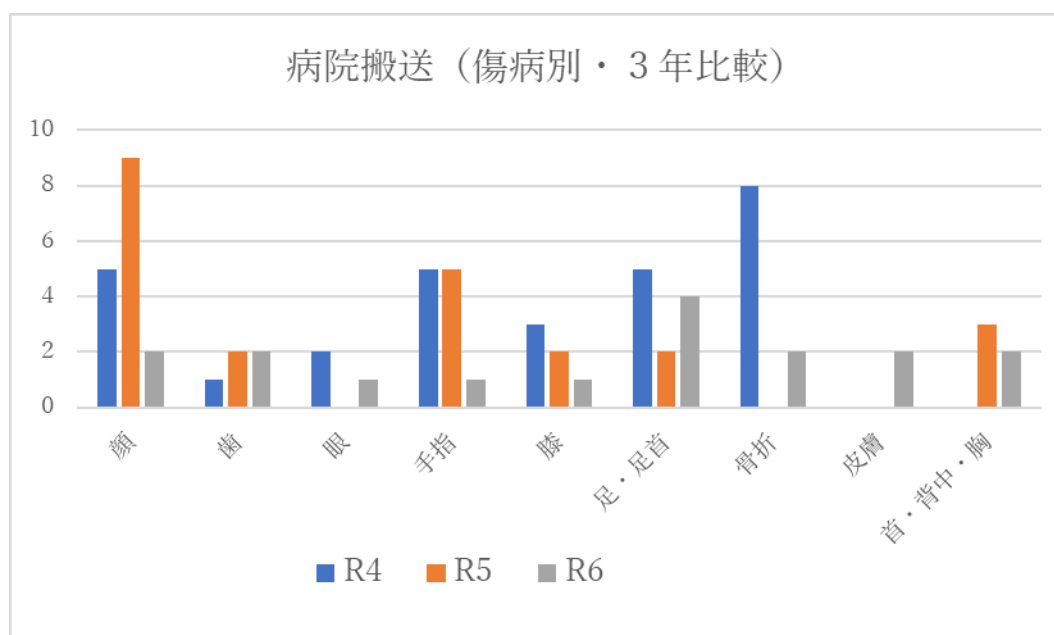
資料：本校におけるケガの分析（保健室より）

・外科による保健室への来室人数



	合計人数
R4	399 人
R5	499 人
R6	254 人

・病院への搬送件数



	合計	学校搬送	家庭搬送
R4	29件	11件	18件
R5	23件	7件	16件
R6	17件	4件	13件

学校搬送・・・学校から病院への搬送
家庭搬送・・・帰宅後家庭から病院受診